２０２０年１０月１３日（火）

老球の細道５６７号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART・Ⅳ〉

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

山崎先生と知り合いになれてから色々な物をいただいた。最初は鶴鳴チームの大会におけるスタッツや戦評などの通信だった。その後、チームの練習ビデオをいただいた。これは非常に貴重なもので、その後私のコーチングにどれだけ役立ったことか・・・・。

当時、全国大会で実績をあげた日本の指導者は、カテゴリーを問わず、ジャパンライムなどのビデオ制作会社から自分の指導ビデオを販売することが多かった。私たち地方の指導者は、それらのビデオを高いお金を出して購入し、面白く、珍しく、役に立つドリルなどを研究したものである。

しかし、山崎先生はビデオ会社から指導ビデオを販売することをしなかったのである。自分なりの信念からなのかその理由は不明。だから鶴鳴がどんな練習をしているか当時は誰もわからなかった。[付記：当時、長崎鶴鳴女子高校まで練習見学に会津から出かけた狂コーチが２人いた。鈴木新氏（現坂下ミニバス監督)、桑田粒哉氏（現安積高校教諭）]

そんな折、先生に練習方法や練習内容を尋ねていたら、先生は自分で作成編集した「鶴鳴練習ビデオ」を私に送ってくれたのである。これには驚き、感激した。何事も「求めよ！さらば与えられん」である。

もう一つ貴重なものをいただいた。私の次男が高校時代に膝の半月板の手術をする時、先生から膝の手術を撮影したビデオテープが送られてきた。それまで本などの写真では見たことがあったが、実際映像で見るのは初めてであった。後でわかったのだが、先生は医学にも博識で、驚くべきことに自著のスポーツ医学書を出版していたのであった。バスケットボールの本を出版するだけでも偉大なことなのに、スポーツ医学書まで書いていたことを知り、「恐るべし山崎純男」と脱帽するしかなかった。

その後先生からは『続チームを創る』と『チームを創る〈改訂版〉』の著書もいただき、多くの金言をノートにしたため、チームのミーテイングや学級通信などに大いに利用させていただいた。下記は『続・チームを創る』の中で特に利用が多かった山崎名語録である。

◆「勝負に携わる者は途中で勝負が見えてしまうような試合は絶対にしないこと」
◆「心が冷めた人間にいくら怒りをぶつけても空しいだけ」
◆「強くなるのは抵抗することから始まる。自滅するな。あくまで抵抗せよ」
◆「悲しみや苦しみは食べてしまえ。みんなの前に持ってくるな」
◆「逃げ道を用意するのがアマ、ないのがプロ」
◆「弱い選手は結果をすぐに見たがる」
◆「人は、他人の一生懸命な姿に何度も何度も接して本物になっていく」
◆「自分に厳しいことは、気づく努力をし続けること」
◆「意図的な結果は実になり、偶然の結果はすぐに散る」　　〈もう少し続く〉